



2年総探・理探オリエンテーション

Think Globally, Act Locally ～国際的な視点から地域の課題を考える～

4月14日5・6限、「～調べ学習からの進化～地域と世界をつなぐ探究のヒント」と題し、(株)リクルート田村乃唯氏による2年普通科総合的な探究の時間・総合科学科理数探究オリエンテーションが行われました。今年の探究活動のポイントは①調べ学習からの進化、②地域で活躍する大人とのつながり、③国際的な視野を持った課題解決という3点です。田村氏からは海外の事例等も交えながら、課題探究の方法を非常にわかりやすくご講義いただきました。

ペアやグループでのワークショップで活発に話し合い、熱心にメモを取るなど、参加した2年生の生徒たちの真剣に取り組む姿が非常に印象的でした。その姿からは今年の探究活動のさらなる発展が期待できそうです。「探究を促進するキーワードは『ジブンゴト』、『正しさ』よりも『楽しさ』」をスローガンに、知ること、対話すること、考えることなど探究活動の楽しさを実感できる1年にしていきたいと思います。

オリエンテーションを通して学んだこと ～振り返りシートより～

このオリエンテーションでは、探究するのに参考になりそうなヒントがいくつかあった。1つ目に、「わからないことは素直に聞く」ということだ。具体的な質問リストを作ること、計画的にできると思う。2つ目は固定観念を崩し、新しいアイデアを得ることだ。自分が思い込んでいることが間違っていたり、考えが広がらなかったりするので、他の人の考え方や国際的な視点も取り入れたい。特に「国際社会と地域」の分野ではこの国際的な視点を取り入れることが重要になる。3つ目に、研究論文を参考にするとき、まずアブストラクト(概要)を見ればよいということを知ることができてよかった。



このオリエンテーションを通して、なぜ私が以前プレゼンをしたとき、聴衆にうまく伝わらなかったのかに気づくことができた。それは私がインターネットからの情報だけで内容を組み立てていたからだ。つまり、調べ学習に過ぎなかったということだ。思い返してみると、実際に審査員からのコメントにはアイコンタクトや声量、ジェスチャーの良さはかがりが書かれていて、発表の内容は薄かったのが、表現のテクニックだけで良い発表にしようとしていたのだとわかった。「探究を楽しむ」、「大切なことは何なのか見失わないようにする」ことを忘れず、後悔のない探究活動をしたいと思う。

総探は自分たちの進路につながるかもしれないので、大切な機会だと思って、取り組もうと思う。情報収集した後はその情報をまとめるだけでは不十分で、社会に向けた提案やアクションを考えることが必要だとわかった。オリエンテーションの中で、一番大切にしていきたいと思ったことは、地域や社会とのつながり方だ。まず、紀州新聞や日高新聞などの地方紙に自分たちの「問い」についてのヒントがあるかもしれないので、図書館で調べることがポイントだ。自分たちで調べてわからなかったことを地域の人に聞くときは、具体的な質問リストを作って、相手の方の迷惑にならないようにしようと思う。他にもこのオリエンテーションで学んだことを生かして、楽しく興味深い総探になればよいと思う。

